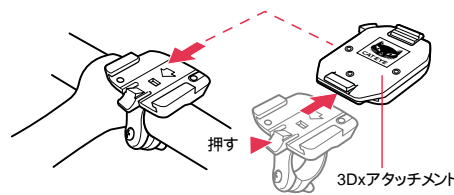


まず最初にこの「クイックスタートマニュアル」を読み、ある程度の基本操作を理解してください。

1~4の順に、取付け及び設定を行います。

## 1 自転車への取付け

すでにキャットアイサイクロンコンピュータCC-CD100をお使いの場合は今までのブラケット・センサーをそのままご使用いただくこともできます。この場合は3Dxアタッチメントをブラケットのレバーを押しながらスライドして外し、今お使いのブラケットに装着してください。



## 2 チェストベルト/メインユニットの取付け

## 3 メインユニットの設定

## 4 その他の機能と操作

細かい設定は後に簡単に変更できます。ある程度操作に慣れてから別冊「ユーザーマニュアル」をご覧ください。

### ユーザー登録のご案内

お求めいただきました製品は、ユーザー登録が必要です。ユーザーマニュアル 31ページの説明に従って必ずユーザー登録を行ってください。

製造/販売元: **株式会社キャットアイ**  
 〒546-0041 大阪市東住吉区桑津2丁目8番25号  
 TEL:06-6719-6863ダイヤルイン FAX:06-6719-6033  
 Copyright© 2000 CAT EYE Co.,Ltd.  
 MSC3DxSJ-000204 2 Printed in Japan  
 0687540

# 1 自転車への取付け

A/Bの条件に満たす位置に1~6の手順に従って自転車にパーツを取付けてください。

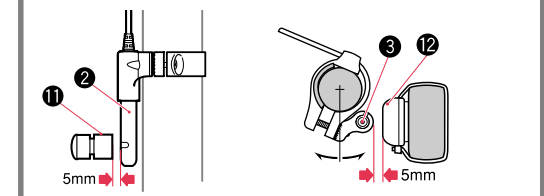
### パーツの名称

取付けには以下のパーツが必要です。全てそろっているか確認してから作業を行ってください。

- |                       |                 |
|-----------------------|-----------------|
| ① ブラケット (3Dxアタッチメント付) | ⑦ センサーゴムパッド     |
| ② 速度センサー(短いコード)       | ⑧ ブラケットゴムパッド    |
| ③ ケイデンスセンサー(長いコード)    | ⑨ バンドホルダー付ゴムパッド |
| ④ センサーバンドA(大-2 小-2)   | ⑩ センサーネジ(2)     |
| ⑤ センサーバンドB(2)         | ⑪ ホイールマグネット     |
| ⑥ ナイロントイ(大-8 小-1)     | ⑫ ケイデンスマグネット    |

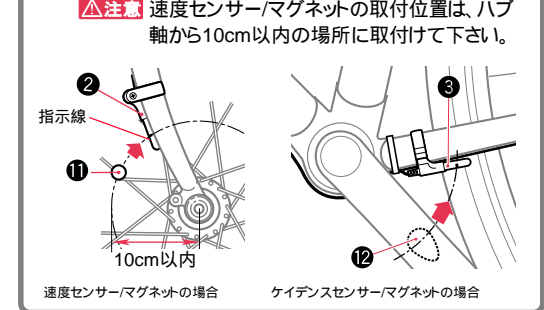
### 取付け条件

A センサーとマグネットの間隔は約5mm。

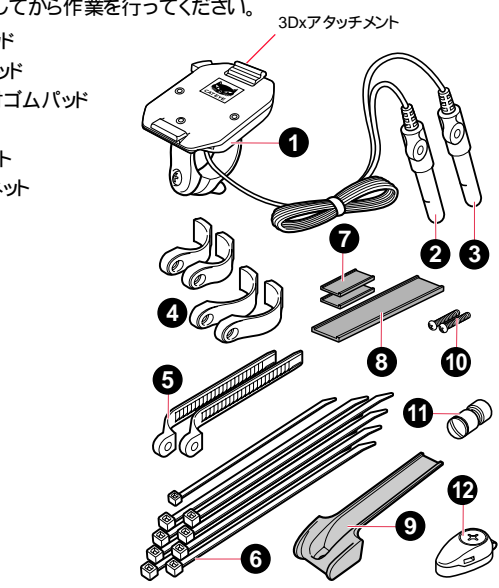


速度センサー/マグネットの場合 ケイデンスセンサー/マグネットの場合

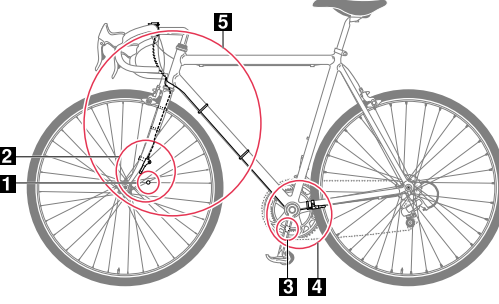
B 車輪及びクランクを回したとき、マグネットの中心(ケイデンスマグネットは十字マーク)がセンサーの指示線を通過する。  
**△注意** 速度センサー/マグネットの取付位置は、ハブ軸から10cm以内の場所に取付けて下さい。



速度センサー/マグネットの場合 ケイデンスセンサー/マグネットの場合

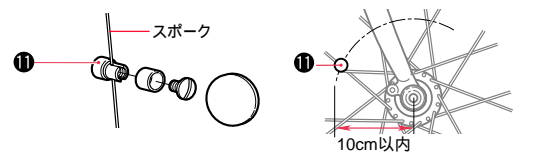


### 取付け全体図

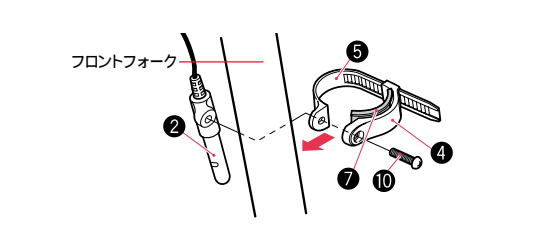


# センサー&マグネット

1 前輪右側のスポークにコイン等でマグネット⑪を仮止めします。  
**△注意** 速度センサー/マグネットの取付位置は、ハブ軸から10cm以内の場所に取付けて下さい。

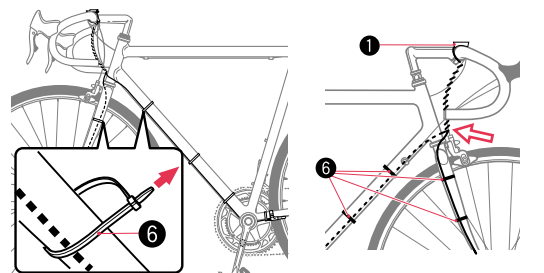


2 右側フロントフォークに速度センサー②を仮止めします。その後、取付時の条件A/Bを満たす位置に速度センサー②とマグネット⑪を移動させ調整します。調整後ネジ⑩とマグネット⑪をしっかり締めつけます。

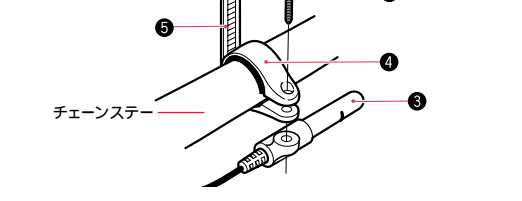


# センサーコード

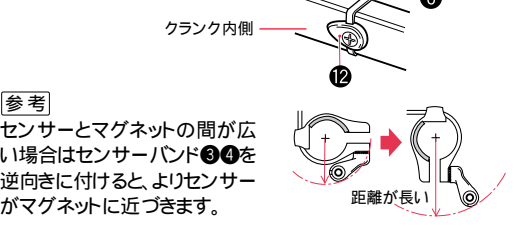
5 コードはナイロントイ⑥で自転車のフレームに止め、プレーキケーブルに巻き付けてハンドルまで配線します。  
**△注意** ←部分はハンドルを回したときに、コードが引っ張られないように長さを調節します。



3 左チェーンステー前部にケイデンスセンサー③を仮止めします。



4 取付時の条件A/Bを満たす位置にケイデンスマグネット⑫の取付位置をケイデンスセンサー③と共に調整します。調整後、ケイデンスマグネット⑫を粘着テープとナイロントイ⑥で固定します。

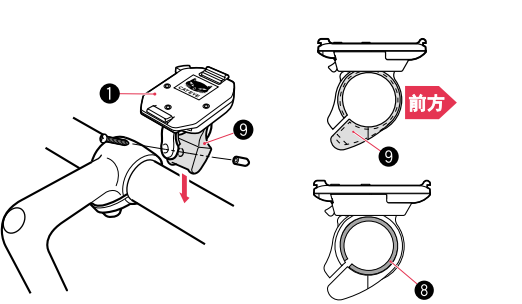


### 参考

センサーとマグネットの間が広い場合はセンサーバンド③④を逆向きに付けると、よりセンサーがマグネットに近づきます。

# ブラケット

6 ブラケット①にバンドホルダー付ゴムパッド⑨をはめ、ハンドルにはめします。ガタつく時はブラケットゴムパッド⑧を重ねることで調節し、ネジでしっかりと固定します。

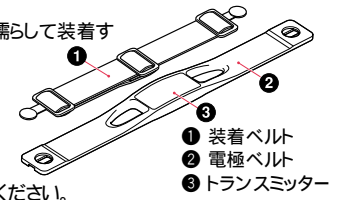


# 2 チェストベルト/メインユニットの取付け

## チェストベルト

### チェストベルト心拍センサーを装着する前に

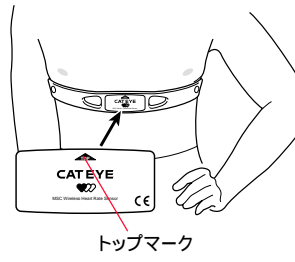
- △警告** ベースメーカーをご使用の方は、絶対にご使用にならないでください。
- △注意** チェストベルト心拍センサーは、胸の中央部分に装着してください。また、電極ベルトが肌に接触している必要があります。計測ミスをなくすために、電極部分に水または心電計用の電解質クリームを塗ってから装着することをおすすめします。皮膚の弱い方などは、薄いシャツの上からチェストベルトの電極部分を水で濡らして装着することもできます。胸毛が計測を妨害することもあります。



### チェストベルト心拍センサーの装着

次の手順に従って装着してください。

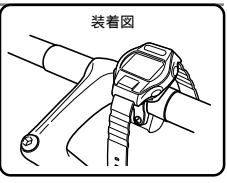
- 胸回りに合わせて装着ベルトの長さを調節してください。  
**△注意** きつく閉めすぎると、計測中に苦痛になることがあります。
- 胸の中央部分に装着ベルトのフックを、電極ベルトに引っかけて取り付けください。必ず、ベルトの電極部分が身体に密着するようにしてください。
- シャツの上から装着するときは、電極部分を濡らすと効果的です。また、冬場皮膚が乾燥しているときは、直接肌に装着した場合でも計測ミスを起こすことがあります。このようなときは、電極部分を濡らしてください。
- トランスミッターが胸の中心(アンダーバスト部)になるよう、ベルト全体をずらし調節してください。チェストベルト心拍センサーは図のようにTOPが上を向く(文字が読める)方向になっているか確認してください。



## メインユニット

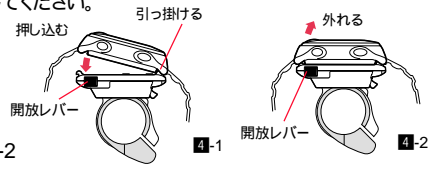
### 装着

- 装着図の様にメインユニットをブラケットに固定します。まず後方をひっかけ、開放レバーを押しながら前方を押し込みます。4-1 開放レバーを放すとツメがメインユニットに引っかかり、ブラケットに固定されます。メインユニットがブラケットにしっかり噛みあっているか、確認します。  
**△注意** 無理にメインユニットを押し込むと故障の原因となります。装着前に、ブラケットとメインユニットの間に異物が無いか確認してください。
- リストバンドをブラケットに巻き付け、時計をはめる要領で固定します。  
**△注意** 走行中は開放レバーに触れないでください。不意にメインユニットが外れて危険です。



### 外し方

リストバンドを外し、ブラケット前方にある開放レバーを押込みます。4-2



# 3 メインユニットの準備

サイクロコンピュータの機能を使うためには、自転車のタイヤ周長(タイヤ外周の長さ)の登録が必要です。まず簡易的に下のタイヤ周長ガイドで、自転車のタイヤサイズから周長を見つけてください。タイヤ周長ガイドにない場合はとりあえず初期設定数値(2096)をお使いください。

タイヤサイズはタイヤの側面に表示されています。

タイヤ周長(外周長さ) L	タイヤサイズ	タイヤ周長(外周長さ) mm	タイヤ周長(外周長さ) mm	タイヤ周長(外周長さ) mm	タイヤ周長(外周長さ) mm	タイヤ周長(外周長さ) mm	タイヤ周長(外周長さ) mm
24 x 1	1753	26 x 1-1/8 Tubular	1970	26 x 2.35	2083	700 x 20C	2086
24 x 3/4 Tubular	1785	26 x 1-3/8	2108	27 x 1	2145	700 x 23C	2096
24 x 1-1/8 Tubular	1795	26 x 1-1/2	2100	27 x 1-1/8	2155	700 x 25C	2105
24 x 1-1/4	1905	26 x 1.40	2005	27 x 1-1/4	2161	700 x 28C	2136
24 x 1.75	1890	26 x 1.50	1985	27 x 1-3/8	2169	700 x 30C	2170
24 x 2.00	1925	26 x 1.75	2023	650 x 35A	2090	700 x 32C	2155
24 x 2.125	1965	26 x 1.95	2050	650 x 38A	2125	700C Tubular	2130
26 x 1 (559mm)	1913	26 x 2.00	2055	650 x 38B	2105	700 x 35C	2168
26 x 1 (650C)	1952	26 x 2.10	2068	700 x 18C	2070	700 x 38C	2180
26 x 1.25	1953	26 x 2.125	2070	700 x 19C	2090	700 x 44C	2224

ボタンの名称

速度単位の選択

タイヤ周長の設定

計測画面「走行時間」

## (1) 初期設定

MSC-3DxにはSET/ATボタン、MODEボタン、LAPボタン、LTボタン、S/Sボタン、ACボタンの6つのボタンがあります。(1-1)各ボタンの位置及び名称を確認したうえで下記の設定を行ってください。

- ACボタンを押してから、速度単位を設定します。ACボタンを押すとブザー音と共に画面がいったん全点灯し、「km/h」の速度単位が点滅します。MODEボタンを押すと「km/h」と「mph」が切り替わりますので希望の速度単位を選択してください。(1-2)
- SET/ATボタンを押します。SET/ATボタンを押すと速度単位が確定し、タイヤ周長アイコン(A)と共にあらかじめ設定されているタイヤ周長値「2096」が点滅します。(1-3)
- ここでタイヤ周長を入力します。あらかじめ上の表で見つけたタイヤ周長を表示させます。
  - MODEボタンを押すと、数値が増加します。
  - LAPボタンを押すと、数値が減少します。
  - それぞれのボタンは、押し続けると早送りになります。

**△注意** 今は仮の周長を設定しましたがタイヤ周長を正しく設定することで正確な計測が可能となります。後で正確な数値に変更する場合は「ユーザーマニュアル13ページ(タイヤ周長の変更)」をご覧ください。
- SET/ATボタンを押します。SET/ATボタンを押すとタイヤ周長が確定し、上段に「走行速度」、中段に「心拍数」、下段に「走行時間Tm」が表示された計測画面(1-4)に替ります。



## (2) 基本の操作

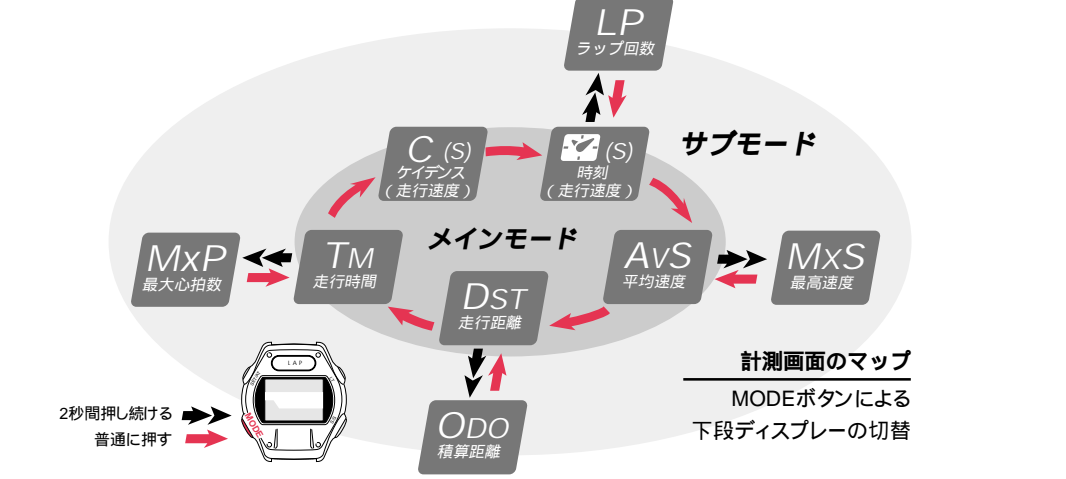
計測のスタート・ストップ  
S/Sボタンを押すとメインユニットは「走行時間Tm」のカウントを始め、同時に「走行距離Dst」と「平均速度AvS」を計測します。計測中は中段の「bpm(心拍数単位)」が点滅します。もう一度S/Sボタンを押すと走行時間のカウントが止まり、計測をストップします。「走行速度00」「心拍数♥」「ケイデンスC(ノコギリ)」「積算距離Odo」「最大心拍数MxP」「最高速度MxS」は走行時間のスタート・ストップに関係なく計測・表示します。

## 計測画面の切替え

ディスプレイの上段には「走行速度00」が表示されます。中段には「心拍数♥」を表示します。下段は好みのデータを切り替えることができます。MODEボタンは下段ディスプレイを切替えるボタンです。「走行時間Tm」表示からMODEボタンを押すと「ケイデンスC」表示になります。「ケイデンスC」から「時刻」へ移ります。さらに「平均速度AvS」「走行距離Dst」の順に切り替わり、もう一度押すと「走行時間Tm」に戻ります。このようにこれら5つのメインモードの切替えはMODEボタンを押すだけで行えます。

メインモードはそれぞれにサブモードを持ちます。「走行時間Tm」のサブモードは「最大心拍数MxP」です。サブモードを表示するにはMODEボタンを2秒間押し続けます。サブモードの「最大心拍数MxP」からメインモードの「走行時間Tm」に戻るにはMODEボタンを押します。「時刻」のサブモードは「ラップ回数LP」です。「平均速度AvS」のサブモードは「最高速度MxS」で、「走行距離Dst」のサブモードは「積算距離Odo」です。「ケイデンスC」にはサブモードはありません。サブモードから他のサブモードに直接移動することはできません。

この表示モードの切替えは計測のスタート・ストップに関係なく行うことができます。MODEボタンの押し方を使い分けることによっていつでも好きなデータにアクセスできます。



## (3) 時計の時刻設定

では時刻がまだセットされていないので、次の説明に従って時間を合わせてみましょう。速度単位を「km/h」にしたときは24時間時計、「mph」にしたときは12時間時計として機能しますので時刻を合わせる場合は注意してください。

- 中段の「bpm(心拍数単位)」が点滅していないことを確認します。これは「走行時間Tm」が作動していないことを表します。もし点滅していたらS/Sボタンを押し、点滅を止めます。
- 下段ディスプレイが「時刻」になるまで数回MODEボタンを押します。(3-1)
- SET/ATボタンを押すと「時」の桁が点滅して時刻が入力できます。(3-2)
  - MODEボタンを押すと「時」が+1します。押し続けると早送りされます。
  - LAPボタンを押すと「時」が-1します。押し続けると早送りされます。
  - S/Sボタンを押すと点滅する桁が「分」に替ります。(3-3)
  - MODEボタンを押すと「分」が+1します。押し続けると早送りされます。
  - LAPボタンを押すと「分」が-1します。押し続けると早送りされます。
  - S/Sボタンは押すごとに「時」と「分」を切り替えます。
- SET/ATボタンを押すと確定されて計測画面の「時刻」表示に戻ります。

## (4) センサーの作動テスト

- 速度センサー
- ブラケットにメインユニットを装着し、センサーのチェックを行います。前輪を浮かせて軽くタイヤを回し、数値が表示されることを確認してください。
- ケイデンスセンサー
- 次にケイデンスセンサーのチェックを行います。まずMODEボタンを押して下段にメインモードの「ケイデンスC」を表示させてください。クランクを逆回転させて、数値がカウントされることを確認してください。
- 速度及びケイデンスの数値が0のままのときはセンサーとマグネットの位置関係が正しくありません。裏面の「パーツの取付け」のA Bの条件を満たすようにセンサーとマグネットを調整し直してください。
- チェストベルト心拍センサー
- 裏のページの説明に従いチェストベルト心拍センサーを身体に装着します。
- チェストベルト心拍センサーを身体に装着します。
  - 自転車の横に立ってメインユニットを身体の前方にしたとき、中段ディスプレイに心拍アイコンが点滅して数値を表示するか確認します。心拍アイコンが点滅しないときは裏面の説明をよくご覧になり、チェストベルト心拍センサーの装着をやり直してください。
- センサーの作動テストで異常が無ければ準備は完了です。

# 4 その他の機能と操作

しばらく自転車に乗り、基本操作を参考に操作感覚をお確かめください。またMSC-3Dxをご使用いただく上で次の機能と操作は重要ですのでぜひ覚えてください。

## オート機能

このメインユニットは自転車の動きを検知して自動的に計測をスタート・ストップする「オート機能」を持っています。この機能は初めはオフの状態に設定されます。オート機能がオンになると画面に(A)アイコンが点灯します。下段ディスプレイが「走行時間Tm」「ケイデンスC」「平均速度AvS」「走行距離Dst」の時にSET/ATボタンを押すとオン・オフできます。

オート機能をオンにするとボタンを使って計測をスタート・ストップすることはできなくなります。この機能は自転車に装着した時にだけ使える機能といえます。腕に付けて心拍計として使うときはオート機能はオフにしてください。

## 上段表示の切替

初めは上段ディスプレイには走行速度が表示されますが、上段表示を時刻やケイデンスに替えることができます。SET/ATボタンとS/Sボタンを同時に押すと切り替わります。上段を「時刻」にしたとき ..... 下段メインモード「走行速度S」上段を「ケイデンス」にしたとき ..... 下段メインモード「走行速度S」オート機能が働いているとき (A)アイコンが点灯 はS/Sボタンを押すだけで切替えます。

## リセット操作

S/SボタンとMODEボタンを同時に押すと、走行時間、平均速度、最高速度、走行距離、最大心拍数、ラップで記憶したデータをリセットして0に戻します。

## ペース機能

自転車に装着して走行すると下段ディスプレイの右端に上向きや下向きの矢印が表示されます。これはペースアローです。今の走行速度が平均速度よりも上回るか下回るかを表します。平均速度が0の時は表示しません。

## 節電機能

約15分、ボタンを押さなかったり、センサーの信号が入らないとメインユニットは時刻表示だけの節電状態に入ります。LTボタン以外のボタンを押すか、速度信号が検出されると通常の計測画面に戻ります。

## LTボタン

このボタンを押すと、約3秒間画面のバックライトが点灯します。

MSC-3Dxにはこの機能の他に「メモリー計測機能」「心拍目標ゾーン」等のたくさんの機能が搭載されています。各計測データの詳細やこれらの機能については別冊ユーザーマニュアルをご覧ください。